

## 会 議 記 録

高松市附属機関等の会議の公開及び委員の公募に関する指針の規定により、次のとおり会議記録を公開します。

会 議 名	平成28年度 第6回高松市在宅医療連携会議
開 催 日 時	平成28年3月22日（水）19：00～20：30
開 催 場 所	高松市医師会館 2階 大会議室
議 題	1 退院支援・医療介護連携部会と「第3回退院調整・地域連携打ち合わせ会」の報告について 2 平成28年度多職種連携研修の報告について 3 在宅医療と介護に関する市民公開講座の報告について 4 在宅医療コーディネーター養成研修会について 5 在宅ケア便利帳に関する今後の対応について ・便利帳【概要版】の増刷について 6 平成28年度の報告と平成29年度の計画（案）について 7 その他
公開の区分	<input checked="" type="checkbox"/> 公開 <input type="checkbox"/> 一部公開 <input type="checkbox"/> 非公開
上 記 理 由	
出席委員	14人
	吉澤委員長、大原職務代理、青木委員、大橋委員、長内委員、木村委員、多田委員、田中委員、辻委員、永岡委員、中村委員、坂東委員、古川委員、松本委員
関係者	市医師会事務局（3人） その他：医師会（伊藤副会長）、歯科医師会（森井常務理事）、県随員（1人）
傍聴者	0人
担当課及び連絡先	長寿福祉課 地域包括ケア推進室 839-2345 介護保険課 839-2326 地域包括支援センター 839-2811 保健対策課 地域医療対策室 839-3805

### 協議経過及び協議結果

#### 1 退院支援・医療介護連携部会と「第3回退院調整・地域連携打ち合わせ会」の報告について （資料1、1-2、1-3）

○A 委員より報告がある。

（委員長） 次年度も様々な取組が予定されているが、今後は、医師のネットワークづくりにも力を入れていきたいと思っている。

#### 2 平成28年度多職種連携研修の報告について（資料2）

○B 委員より、多職種連携研修の報告がある。

→質問等なし

### 3 在宅医療と介護に関する市民公開講座の報告について(資料3)

○事務局より、市民公開講座の報告がある。

(B 委員) 今回の講演を聞いて、「かかりつけ医を持ちたい」と答えた人が多く、理解が深まったと思う。新聞に掲載したことで、県全体に高松市の取り組みを知らせることができたのもよかった。

(委員長) ホームページに市民公開講座の開催報告を掲載をお願いします。

### 4 在宅医療コーディネーター養成研修会について(資料4、資料4-2)

○C 委員より、在宅医療コーディネーターの報告がある。

(C 委員) 最終的には地域で活躍してほしい。

### 5 在宅ケア便利帳に関する今後の対応について(資料5、資料5-2)

○事務局より報告がある。

(委員長) 次年度は、活用状況のアンケート調査を実施し、どのような場面やどの媒体を使用して活用しているか、考察の必要がある。H30年医療・介護保険の同時改訂が予定されており、それ以後で概要版の編集が必要。

(A 委員) 日赤では詳細版を職員に配布して活用している。概要版は在宅に帰る人に配布しているが、イラスト部分に実際に利用するサービス事業者の名称を書き込んで活用している。説明しやすい、分かりやすいと評判。

(委員長) 著作権については、出所を明確にすれば活用しても OK です。各団体の会等で便利帳のコマーシャルをよろしくをお願いします。

### 6 平成28年度の報告と平成29年度の計画(案)について(資料6、資料6-2)

(C 委員) 一点目に、小児の在宅は置きざりで、県内でも全く進んでいない。来年度からは難しいと思うが、勉強会の開催ができればと思っている。相談支援センターができれば、積極的に取り組んでほしい。二点目に、コーディネーター養成研修の準備を早くできるようにしてほしい。三点目は、コーディネーター養成研修修了者の活躍する場を作れないか。何をしたらいいの？と言われることも多いので。町の保健室のような場所で便利帳を使用して案内する等、行政が入れば形になるのではないかと。四点目は、認知症の患者は、病識がなければ地域に埋もれていることが多いので、行政とタッグを組んで取組を進めていくことができるか？五点目は、在宅医療の周知度は増しているが、質の向上がなぜ進まないのか？近所の人少しの時間見てあげる等、市民が関わる大切だと思うので、行政が旗振り役をして市民ボランティアの育成をしてほしい。

(D 委員) 香川地区では、医療・介護の専門職と地域の住民とで認知症に特化したネットワーク会議をいわき病院の中村先生と一緒に開催している。便利帳も活用しながら、困難事例のファーストタッチをどうするか等具体的に検討している。

(E 委員) 香南・香川地区は専門職が集まって検討している。解決策が見つかるわけではないが、専門職の間には理解が深まりつつある。医師が入っていないのが課題で、具体的に関わっていただくための工夫等共有できていない。事例検討に医

- 師も入ってもらい、定期的に開催できるとよいと思っている。
- (委員長) 障がいのある小児の親は、隠そうとする場合も多く、非常にデリケートな問題。特殊学級のことも含めて、国の包括ケアの概念には小児も入っている。検討する際には、小児科の医師や保育士にも入ってもらう必要がある。国からの指針がまだはっきりしていないので、これからの課題だと思う。
- コーディネーターについては、相談支援センターができれば、活躍できると思う。瓦町 FLAG の一画に相談コーナーを作る等どこに配置するかも含めて検討が必要。市民ボランティアについては、ヘルパーにさえも心を閉ざす人も多く、様々な課題があると思う。地域ケア会議を通じて話し合ってもらい、課題を出してきてほしい。
- (事務局) 要支援者と事業対象者への総合事業の B (住民主体サービス) の取り組みを報告。
- 社協に委託して、44の地域コミュニティ協議会単位で検討中。訪問Bは、10月から庵治地区で開始、4月から3つの地域コミュニティ協議会で開始予定。通所Bは、4月から1つの地域コミュニティ協議会で開始予定。
- (C 委員) 高松市の取り組みは知っている。高齢者だけでなく、幅広い年齢を対象に、おむつの替え方や対応方法について学んでもらうイメージで考えている。地域のボランティアを総合事業の担い手として活用してもらえると良いと思う。

## 7 その他

○事務局より報告がある。

→質問等なし

### 【次回の日程】

平成29年度第1回高松市在宅医療連携会議を、平成29年5月17日(水)19:00～高松市医師会館にて開催することとなる。